

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	竹生 正人	法人・事業所の特徴	同一敷地内にはサービス付き高齢者向け住宅、認知症対応型居宅介護、居宅介護支援、訪問介護などがあり、安心して地域の中で生活ができるよう様々なサービスを提供しています。県民せいきょう福祉理念である「あなたらしさいつまでも」をもとに、さらに「10の基本ケア」を取り入れ、ひとりひとりの普通の生活を実現していけるように取り組んでいます。
事業所名	県民せいきょう小規模多機能型ホーム 江守きらめきハウス	管理者	小林 佳代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人		1人	人	2人	人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	外部評価については、小規模多機能部門全体において合同勉強会を予定し職員の理解を深めていきます。月1回、小規模会議を開催し、外部評価の改善計画について共有していきます。	・今年度は職員の出入りが多かった事もあり、現場業務の指導と実施する事が最優先となった事もあり、外部評価についての会議や合同勉強会の実施が出来ませんでした。	・24時間体制で利用者の支援を行って、更に様々な取組みを行って大変だと思います。職員も身体を壊さないように無理せずに取り組んでください。 ・お薬の事故は重大事故につながりやすいので、服薬支援の際は特に注意してください。	・月1回小規模会議を開催し、その中で外部評価の勉強会を実行し、改善計画について共有して取り組みます。 ・利用者からお泊りの要望があった際に現状対応できない曜日もあるので対応できるようなシフト体制の構築を図ります。 ・服薬支援の際は服薬支援手順に沿った対応を職員全員が理解して実行するように会議で勉強会を行います。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所外玄関に、営業中はウエルカムボードや活動予定、活動写真などを提示し、気軽に入れるような環境を整えていきます。これまで家族会などのイベントは地域交流ホールで行っていましたが、小規模多機能内で行うなど、出入りしやすい仕組みを作ります。	・事務所外玄関に利用者の活動風景を記載したウエルカムボードを設置する事で玄関前まで来られた方への案内を実施しました。 ・内玄関には活動写真を掲示する事で、利用者家族や見学者に事業所の活動内容をわかりやすく見ていただけるように環境整備しました。	・内玄関には活動写真を掲示する事で様々な取組みをしている事を来館者に伝えられて良い取り組みだと思えます。	・現状施設ホールを地域住民に開放しており、その利用者と交流する取り組みを提案します。 ・毎年開催している施設祭りの際に来場者に施設の場所や取り組み内容がわかるような掲示物を作成して案内します。 ・地域交流ホールに事業所の取り組みポスターを提示し地域住民との顔繋ぎの關係に繋がるようにしていきます。
C. 事業所と地域のかかわり	地域貢献に向けて、拠点地域の草取りなど社会奉仕を行い、地域住民との顔が見える関係を構築していきます。業務携帯においては所持者固定となっているため、会議などで業務携帯に対応できない場合には他の職員と連携し、いつでも連絡がとれる体制をつくりまします。	・江守中公園花壇の草むしりをして花を植えました、ただ水やりといったお世話を継続しての活動は実行できませんでした。 ・業務携帯はスタッフで連携して保持するように改善する事で、何時でも対応できるようにしました。	・地域の祭りや防災訓練にスタッフや利用者が参加されて地域活動に参加出来ていると思います。 ・24時間体制で業務対応されていて大変だと思いますが無理のないように支援下さい。	・地域に継続して外出する取り組みを行い、地域公園花壇のお世話を継続して実行していきます。 ・現状参加できていない地域行事に利用者と職員ができるよう取り組みます。 ・地域の夏祭りに地域ブロックの一員として参加していけるよう自治会長さん、ブロック長さんと連携しながら進めていきます。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>利用者自身へのこれまでの暮らしについての聴き取りを集約したものを再確認しながらつながりのある社会資源については活用できるようご家族を含め話し合いながら進めていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員が利用者と関わった際にこれまでの暮らしについての聴き取りを行い、聴き取った事をアセスメントシートに記入する事でスタッフ全員で共有しました。 ・地域住民との関わりや近隣スーパーでの買い物やゴミ捨てといった活動の際には地域資源と利用者をつなげるような支援を意識して取り組みました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が住み慣れた自宅での地域生活を継続するためにも地域資源の活用はとても大切なことだと思います、今後も継続して取り組んで下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下シートに、利用者と関わった際に得た情報を記入して、職員全員で共有していきます。 ・小規模会議の際に利用者個人の事例を話し合うことで現状より社会資源の活用につなげていきます。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>包括支援センターへの協力を頂き、地域事情などの情報発信を依頼し拠点の地域での課題など、自治会長や地域住民の方と話し合いを行い、地域課題に向けて一緒に取り組めるような仕組みを構築していきます。</p>	<p>地域住民と社会資源の関係性や取り組みについての報告が弱く、実際の地域事情については事業所として意識が弱かった様に思いました。また、地域の総会などに参加していくことで、地域住民や福祉委員・民生委員さんなどとの関係性を構築していく必要性も感じました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の民生委員や福祉委員や利用者家族の参加が少ないと思う。 ・様々な取り組みを行っている事を家族に伝える事も重要であるし、多人数が参加することで意見交換も活発になり運営推進会議がより良い物になると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の民生委員や福祉委員や利用者家族に丁寧に案内をして現状より参加人数の拡大を図ります。 ・また開催日時の見直しを図りながら、参加しやすい日程調整を検討していきます。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>防災訓練の案内については計画性を持って早めに案内していく。また、昨年の雪害により、災害対策として事業所に何ができていたのか、地域住民に何ができたのかなど振り返り、事業所の災害対策について地域に発信していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所がある江守中地域での防災訓練に利用者と職員で参加しました。 ・市の災害協定についてのご報告をさせて頂きながら実際、災害が起きた時、地域の防災訓練参加時の災害協定を活かした模擬訓練を行っていくと、実際に事業所が災害協定としての避難所として活用できることが地域住民に周知されていくと感じました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の際は地域住民の受け入れは何人まで可能でしょうか？ ・停電になった際に事業所は非常電源はあるのでしょうか？ ・停電の際でも携帯電話が使用できるように非常用充電機があると良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時避難マニュアルを運営推進会議の際に案内します。 ・地域での防災訓練に参加します。 ・施設ホールを利用している地域住民に事業所防災訓練に参加いただけるよう提案します。 ・災害協定については、市に確認しながら（実際避難所として活用する場合同）職員全体が周知している体制を整えていきます。